

# 目 次

## I はじめに

1. この研究のねらいとあらまし… 3
  - (1) ねらい
  - (2) あらまし
2. 本県における登校拒否、緘黙の実態…………… 4
  - (1) 登校拒否の実態はどのように  
なっているか
  - (2) 登校拒否児童・生徒は1年後  
にどのように変わったか
  - (3) 心理的原因による緘黙の実態  
はどのようになっているか
  - (4) 緘黙児童・生徒は1年後にど  
のように変わったか

## II 登校拒否

1. 登校拒否をどうとらえるか…………… 14
  - (1) 登校拒否とは
  - (2) 登校拒否のタイプ
2. 登校拒否の指導と治療…………… 18
  - (1) 指導・治療のねらい
  - (2) 指導・治療の手法
  - (3) 登校拒否症状の段階とそれに  
応じた働きかけ

## III 登校拒否児の指導と治療の実際

1. 登校拒否児の状態像…………… 28
  - (1) 登校拒否児は、どんな日常生  
活を送っているか
  - (2) 登校拒否児は、一般的にどん  
な性格の子どもか
  - (3) 登校拒否児の両親にどのよう  
な特性がみられるか
2. 登校拒否の要因…………… 33
  - (1) 登校時の頭痛・腹痛をどう考  
えるか
  - (2) 登校拒否は、ずる休みか
  - (3) 登校を拒否する原因をどう考  
えるか
3. 学級担任による指導と治療…………… 36
  - (1) 自分のクラスに登校を拒否す  
る子どもが出たらどうするか
  - (2) 登校拒否に対して、どのよう  
な働きかけができるだろうか
4. 学級での取り組み…………… 46
  - (1) 「ずる休み」「わがまま」と  
いうクラスの子どもにどのよう  
に話すか
  - (2) クラスの子どもに、どのよう  
に協力させるか

- (3)勉強の遅れをどのようにしてやるか
- (4)学級の諸連絡は、どのようにするか
- (5)進級・留年・休学・就職などをどのように考えるか
- 5.登校刺激……………56
- (1)登校刺激を弱めれば登校できるか
- (2)強い登校刺激はすべて有害か
- (3)登校刺激をしないということは、放置することか
- 6.家庭訪問（訪問面接）……………61
- (1)どんな場合に家庭訪問するか
- (2)訪問しても、会わなかったり口をきかなかった場合どうするか
- 7.両親へのかかわり方……………67
- (1)親との連携をどのようにするか
- (2)子どもの育て方について、どのようなことを確かめておくか
- (3)甘やかされ型の登校拒否児に親はどのように接するか
- (4)優等生の息切れ型の登校拒否児に、親はどのように接するか
- (5)父親からは、どのようにしてもらうか
- 8.再登校……………78
- (1)どのような動きが、再登校のきざしか
- (2)再登校できるきっかけをどのようにとらえるか
- (3)学級での受け入れをどのようにするか
- 9.登校拒否の予防……………81
- (1)早期発見・早期治療といわれているが、登校拒否児にもそれがあてはまるか
- (2)どのようにしたら登校拒否児を早期に発見できるか
- (3)登校拒否児を出さないためにはどうするか
- 10.こんな場合、あなたはどうしますか……………85
- (1)「あすは学校へ行く」と約束するが、翌朝は登校して来ない。
- (2)「物を買ってくれば、学校へ行く」という
- (3)家族に暴力を振るう
- (4)「転校させれば学校へ行く」という

- (5)保健室へは登校するが教室には行かない
- (6)夜と昼が逆転してルーズな生活をしている
- (7)精神病ではないかと家族が心配している
- (8)自殺をほのめかしたりする

#### IV 緘黙

##### 1. 緘黙をどうとらえるか…………… 95

- (1)緘黙とは
- (2)緘黙の分類
- (3)緘黙の原因は何か、どのような現れ方をするか

##### 2. 緘黙の指導と治療…………… 99

- (1)指導・治療のねらい
- (2)指導・治療の手法

#### V 緘黙児の指導と治療の実際

一 心因性緘黙を中心に —

##### 1. 緘黙児の状態像…………… 105

- (1)緘黙児はどんな気持ちで学校生活を送っているか
- (2)緘黙児は一般的にどんな性格の子どもか
- (3)緘黙児はどんな親子関係を持っているか

##### 2. 家庭における要因の見方…………… 110

(1)幼児期にどんな育てられ方をしたか

(2)家でしゃべっても、学校でしゃべらないのはなぜか

##### 3. 学級担任による指導と治療… 113

- (1)堅く心を閉ざす子とどのようにして信頼関係をつくるか
- (2)緘黙児をとりまく仲間づくりをどのようにするか
- (3)学級の中でどのような配慮をするか
- (4)担任以外の教師からどのように協力してもらうか
- (5)情緒障害児学級の担任とどのように連絡をとるか

##### 4. 学級でできる心理治療…………… 123

- (1)学校生活における訓練や友人関係の調整をどのようにするか
- (2)発語への誘導はどのような手順で行うか
- (3)個人遊戯療法や集団遊戯療法をどのように行うか

##### 5. 両親へのかかわり方…………… 130

- (1)学校生活の状況をどのように伝えるか
- (2)子どもの育て方についてどのようなことを確かめるか

- (3)親子関係を改善するために、  
どのような点に着目させる  
か

## VI 校内における取り組み

- 1.校内研修……………137
- (1)校内における共通理解をど  
のように図るか
- (2)事例研究をどのように深め  
るか
- (3)指導方法や指導技術をどの  
ように考えるか
- 2.資料の活用……………142
- (1)活用できる資料にはどのよ  
うなものがあるか
- (2)資料をどのように収集する  
か
- 3.学級担任と校内組織との連携  
……………144
- (1)学級担任は校内の係とどの  
ように協力するか
- (2)学級担任は管理職とどのよ  
うに連携するか
- (3)学級担任は、学級間、学校  
間の引き継ぎをどのように  
行うか

## VII 相談機関

- 1.相談機関の利用……………147
- (1)相談機関にどのようなもの  
があるか
- (2)相談機関の利用に際して、  
どんなことを留意すべきか
- (3)相談機関ではどのように相  
談が進められるか
- 2.相談機関との連携……………153
- (1)相談機関とどのような連携  
をとるか
- (2)相談機関に行くことを本人  
が拒否したときの連携

## VIII まとめ

- 参考文献……………157